

2022年11月実施
第18回
農業簿記検定[®]
2級 問題

注意事項

トイレなど途中退出後の再入室は認めません。試験開始の合図の前までに済ませてください

- 1 試験監督員の指示があるまで、この問題冊子は開かないようにしてください。
- 2 試験中、下記の使用が認められたもの以外は、すべてカバン等にしまい、机の中又は、足元等指定された場所に置いてください。試験中、使用が認められるものは、次のとおりです。
・筆記具（BまたはHBの黒鉛筆/シャープペンシル）・消しゴム・定規・ラインマーカー
・電卓（基準に適合したものに限る。又は算盤）・時計（通信機能を有するものを除く）
- 3 スマートフォン等通信機器を使用することは認めません（時計の代わり又は電卓として使用も不可）。電源を切り、カバン等にしまってください。
- 4 試験監督員の指示に従わない場合、また、周囲に迷惑をかける等、適切な試験の実施に支障を来たす行為を行った場合には、不正受験とみなすことがあります。
- 5 上掲4の場合を含み、不正受験と認められた場合には、直ちに退室を命ずることがあります。
- 6 試験時間は、**2時間（120分）**です。試験開始の合図により、試験を始めてください。
- 7 この問題冊子には、**問題25問まで掲載**しており、**1頁から25頁まで印刷**しています。
試験監督員の指示に従い、頁を調べ、印刷不鮮明や落丁等があれば、挙手をして申し出てください。
- 8 解答は、別途配布した解答用紙（マークシート）に記入（該当番号の塗りつぶし）してください。
- 9 問題の内容に関する質問には、一切応じません。
- 10 退室可能時間は、試験開始後30分後から試験終了10分前です。
※退出を希望する場合は、必ず挙手をして、試験監督員が解答用紙を確認し回収するまでは、席を立たないでください。一旦退出後の再入室は、認めません。
- 11 試験終了の合図とともに、直ちに、筆記具を置き、解答用紙を裏返してください。
- 12 試験監督員が解答用紙を回収し、受験番号や氏名等の記載内容を確認した後、退室可能を指示するまでは、席を立たないでください。
- 13 この問題冊子及び計算用紙は、持ち帰ることができます。解答用紙は、持ち帰れません。

主催 一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会

監修 一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会

※“農業簿記検定[®]”は、一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会の登録商標です

問題 1 以下の文章のうち、誤っている文章が一つある。その文章の選択肢を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 直接材料費とは、原価の発生が一定単位の製品・仕掛品の生成に関して直接的に認識される材料費をいう。農業簿記では、生産工程の始点で投入される種苗費及び素畜費が、原則として直接材料費になる。
2. 材料費の計算において、消費量の計算方法には、継続記録法と棚卸計算法がある。棚卸計算法とは、実地棚卸によって消費量を計算する方法をいう。棚卸計算法では、材料の受入量のみを材料元帳に記録する。
3. 材料の棚卸減耗とは、材料の保管中に何らかの原因によって数量が減少することをいい、その損失を棚卸減耗費という。この棚卸減耗費は、棚卸計算法を採用することによって明らかにされる帳簿棚卸高と実地棚卸高の差額として求められる。
4. 手待時間とは、作業員の責任以外の原因によって作業が行えなかった時間である。当該手待時間に基づいて計算された労務費は間接労務費となる。
5. 経費は、その把握方法によって、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費に分類される。

問題 2

以下の〔仕訳〕と〔勘定〕の資料から、空欄（①）～（③）に入る金額として正しいものの組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

〔仕訳〕（単位：円）

(1) 肥料 150,000 円を掛で購入した。なお、引取運賃 8,000 円は月末に支払うことにした。

(借) (肥料費) (①) (貸) (買掛金) 150,000
(未払金) ()

(2) 肥料 112,000 円分を直接材料費として、12,000 円分を間接材料費として出庫した。

(借) (仕掛品) () (貸) (肥料費) ()
(製造間接費) ()

〔勘定〕（単位：円）

肥料費

| | | | |
|---------|---------|-----------|-----|
| (1) 買掛金 | 150,000 | (2) 仕掛品 | (②) |
| (1) 未払金 | () | (2) 製造間接費 | () |

仕掛品

| | | | |
|---------|-----|--|--|
| (2) 肥料費 | () | | |
|---------|-----|--|--|

製造間接費

| | | | |
|---------|-----|--|--|
| (2) 肥料費 | (③) | | |
|---------|-----|--|--|

【選択肢】

| | ① | ② | ③ |
|---|---------|---------|---------|
| 1 | 150,000 | 124,000 | 12,000 |
| 2 | 158,000 | 112,000 | 12,000 |
| 3 | 158,000 | 112,000 | 8,000 |
| 4 | 158,000 | 124,000 | 112,000 |
| 5 | 150,000 | 112,000 | 8,000 |

問題 3

以下の〔仕訳〕の資料、空欄（①）～（④）に入る金額と勘定科目として正しいものの組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

〔仕訳〕（単位：円）

7/ 1 賃金手当の前月末未払額は 580,000 円であった。

（借）（未払費用） 580,000 （貸）（賃金手当） 580,000

7/22 賃金手当の当月支給総額は、3,500,000 円であり、預り金 105,000 円を差し引いた金額を普通預金から支払った。

（借）（賃金手当） （ ） （貸）（預り金） 105,000
（普通預金） （①）

7/31 作業員の実際作業時間の内訳は次のとおりであった。

直接作業時間 3,200 時間 間接作業時間 450 時間 手待時間 150 時間

なお、消費賃率は予定消費賃率を採用し、1 時間当たり 900 円であった。

（借）（仕掛品） （ ） （貸）（賃金手当） （ ）
（製造間接費） （②）

7/31 賃金手当の当月末未払額は 560,000 円であった。また、賃金手当勘定における貸借差額を賃率差異勘定へ振り替えた。

（借）（賃金手当） 560,000 （貸）（未払費用） 560,000
（③） （④） （？） （④）

【選択肢】

| | ① | ② | ③ | ④ |
|---|-----------|---------|------|---------|
| 1 | 3,395,000 | 540,000 | 賃率差異 | 60,000 |
| 2 | 3,395,000 | 405,000 | 賃率差異 | 100,000 |
| 3 | 3,395,000 | 540,000 | 賃率差異 | 100,000 |
| 4 | 3,500,000 | 405,000 | 賃金手当 | 100,000 |
| 5 | 3,395,000 | 540,000 | 賃金手当 | 60,000 |

問題 4 以下の〔資料〕に基づき、各経費の当月消費額の合計額として正しい選択肢を一つ選びなさい。

〔資料〕

| 費 目 | 内 訳 | |
|---------|-----------------|---------------------------------|
| 作業委託費 | 前月末未払額 60,000 円 | 当月支払額 150,000 円 当月末未払額 54,000 円 |
| 賃借料 | 前月末前払額 28,000 円 | 当月支払額 79,000 円 当月末前払額 25,000 円 |
| 減価償却費 | 年間見積額 240,000 円 | |
| 動力光熱費 | 当月支払額 22,300 円 | 当月測定額 20,100 円 |
| 事務用消耗品費 | 月初棚卸高 12,000 円 | 当期購入高 24,500 円 当月末棚卸高 14,300 円 |

【選択肢】

1. 290,500 円
2. 294,300 円
3. 282,300 円
4. 290,600 円
5. 288,300 円

問題 5 以下の〔資料〕に基づき、実際部門費集計表を作成し、さらにその仕訳を行いなさい。空欄(①) ~ (④) に入る金額と勘定科目として正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。

〔資料〕

1. 実際部門費集計表 (単位：円)

| | 金額 | 水稻部門 | 麦部門 | 大豆部門 | 野菜部門 |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|
| 部門個別費 | | | | | |
| 肥料費 | 120,000 | 48,800 | 38,500 | 18,200 | 14,500 |
| 農薬費 | 100,800 | 38,300 | 27,100 | 20,800 | 14,600 |
| 作業委託費 | 155,300 | 65,200 | 34,600 | 20,300 | 35,200 |
| 部門共通費 | | | | | |
| 減価償却費 | 320,000 | () | () | () | () |
| 共済掛金 | 136,000 | () | () | (①) | () |
| 動力光熱費 | 240,000 | (②) | () | () | () |
| 部門費合計 | 1,072,100 | () | () | () | () |

2. 部門共通費配賦基準に関する資料

| | 配賦基準 | 水稻部門 | 麦部門 | 大豆部門 | 野菜部門 |
|-------|--------|------------|------------|------------|----------|
| 減価償却費 | 耕作面積 | 240a | 200a | 120a | 80a |
| 共済掛金 | 機械価額 | 3,200,000円 | 1,800,000円 | 1,200,000円 | 600,000円 |
| 動力光熱費 | 機械運転時間 | 660時間 | 600時間 | 260時間 | 80時間 |

3. 部門費配賦仕訳 (単位：円)

(借) (水稻部門費) () (貸) (④) ()
 (麦部門費) ()
 (大豆部門費) ()
 (野菜部門費) (③)

〔金額〕

ア 128,300 イ 99,000 ウ 90,000 エ 64,300
 オ 25,500 カ 24,000 キ 仕掛品 ク 製造間接費

【選択肢】

| | ① | ② | ③ | ④ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | オ | イ | エ | キ |
| 2 | カ | イ | ア | キ |
| 3 | オ | ウ | エ | キ |
| 4 | カ | イ | エ | ク |
| 5 | カ | イ | ア | ク |

問題 6 以下の〔資料〕に基づいて、空欄（①）～（④）に入る金額として正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

〔資料〕

（単位：円）

| 種苗費 | |
|----------------------|----------------------|
| 買掛金 <u>1,150,000</u> | 仕掛品 <u>1,150,000</u> |

| 肥料費 | |
|--------------|---------------------|
| 前期繰越 175,000 | 仕掛品（①） |
| 買掛金 930,400 | 製造間接費（ ） |
| <u>（ ）</u> | 次期繰越 <u>163,000</u> |
| | <u>（ ）</u> |

| 貸金手当 | |
|--------------------|-------------|
| 預り金 26,000 | 未払費用 38,000 |
| 普通預金 730,000 | 仕掛品（ ） |
| 未払費用 <u>35,000</u> | 製造間接費（②） |
| <u>（ ）</u> | <u>（ ）</u> |

| 製造間接費 | |
|---------------|------------|
| 肥料費 253,000 | 仕掛品（ ） |
| 貸金手当（ ） | 製造間接費差異（ ） |
| 外注加工費 66,000 | |
| 減価償却費 555,000 | |
| <u>（ ）</u> | <u>（ ）</u> |

| 仕掛品 | |
|------------------------|---------------------|
| 前期繰越 560,000 | 製品（ ） |
| 種苗費（ ） | 次期繰越 <u>788,000</u> |
| 肥料費（ ） | |
| 貸金手当（③） | |
| 製造間接費 <u>1,100,000</u> | |
| <u>（ ）</u> | <u>（ ）</u> |

| 製品 | |
|--------------|---------------------|
| 前期繰越 654,500 | 売上原価（ ） |
| 仕掛品（ ） | 次期繰越 <u>924,100</u> |
| <u>（④）</u> | <u>（ ）</u> |

| 売上原価 | |
|----------------|--|
| 製品（ ） | |
| 製造間接費差異 78,800 | |

【選択肢】

| | ① | ② | ③ | ④ |
|---|---------|---------|---------|-----------|
| 1 | 253,000 | 448,200 | 304,800 | 2,890,000 |
| 2 | 689,400 | 304,800 | 304,800 | 3,159,600 |
| 3 | 689,400 | 448,200 | 304,800 | 3,814,100 |
| 4 | 689,400 | 304,800 | 448,200 | 3,814,100 |
| 5 | 689,400 | 304,800 | 448,200 | 3,159,600 |

問題 7 問題 6 の計算結果に基づき、製造原価報告書と損益計算書を作成した場合の空欄 (①)
 ~ (④) に入る金額として正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

製造原価報告書 (単位:円)

| | | |
|-----------------|-------|-----|
| I 直接材料費 | (①) | |
| II 直接労務費 | () | |
| III 製造間接費 | | |
| 実 際 発 生 額 | (②) | |
| 製 造 間 接 費 差 異 | () | () |
| 当 期 総 製 造 費 用 | () | () |
| 期 首 仕 掛 品 棚 卸 高 | () | () |
| 合 計 | () | () |
| 期 末 仕 掛 品 棚 卸 高 | () | () |
| 当 期 製 品 製 造 原 価 | (③) | () |

損 益 計 算 書 (単位:円)

| | | |
|----------------|-----|-----------|
| I 売上高 | | 6,000,000 |
| II 売上原価 | | |
| 1. 期首製品棚卸高 | () | |
| 2. 当期製品製造原価 | () | |
| 合 計 | () | |
| 3. 期末製品棚卸高 | () | |
| 差 引 | () | |
| 4. 原 価 差 異 | () | (④) |
| 売 上 総 利 益 | () | () |
| III 販売費及び一般管理費 | | 2,750,000 |
| 営 業 利 益 | () | () |

【選択肢】

| | ① | ② | ③ | ④ |
|---|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 | 1,839,400 | 1,178,800 | 3,238,400 | 2,890,000 |
| 2 | 1,150,000 | 1,100,000 | 3,238,400 | 2,890,000 |
| 3 | 1,839,400 | 1,178,800 | 3,159,600 | 2,968,800 |
| 4 | 1,150,000 | 1,178,800 | 3,080,800 | 2,752,800 |
| 5 | 1,839,400 | 1,100,000 | 3,159,600 | 2,968,800 |

問題 8

当社は畜産農業を営んでおり、標準原価計算を採用している。素畜費の価格差異および直接労務費の作業時間差異と賃率差異を算定し、その正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。

〔資料〕

1. 標準原価カード（1頭当たり）（単位：円）

| | 単 価 | 消 費 量 | 原 価 標 準 |
|-----------|------------|--------------------|------------------|
| 素 畜 費 | 25,000 円/頭 | × 1 頭 | = () |
| 直 接 労 務 費 | 900 円/時間 | × 0.2 時間/日 × 180 日 | = () |
| 製 造 間 接 費 | | | 84,000 |
| | | | () |

2. 当期生産データ（素畜は始点で投入する）

| | |
|-------|-------|
| 期首仕掛品 | 200 頭 |
| 当期投入 | 400 頭 |
| 計 | 600 頭 |
| 期末仕掛品 | 150 頭 |
| 完 成 品 | 450 頭 |

3. 1頭の畜産物の完成のためには、180日の飼育日数を要する。期首仕掛品としての家畜は、期首の段階で150日の飼育日数が経過している。また、期末仕掛品としての家畜は、当期末の段階で60日の飼育日数が経過している。

4. 当期の原価実績

直接材料費（素畜費）： 9,800,000 円（実際消費量：400 頭）

直接労務費： 10,580,000 円（実際直接作業時間：11,500 時間）

【選択肢】

| | 価格差異 | 作業時間差異 | 賃率差異 |
|----------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1 | 200,000 円(不利差異) | 450,000 円(有利差異) | 230,000 円(不利差異) |
| 2 | 200,000 円(有利差異) | 450,000 円(有利差異) | 230,000 円(不利差異) |
| 3 | 200,000 円(有利差異) | 450,000 円(不利差異) | 230,000 円(有利差異) |
| 4 | 200,000 円(有利差異) | 460,000 円(有利差異) | 240,000 円(不利差異) |
| 5 | 200,000 円(不利差異) | 230,000 円(不利差異) | 450,000 円(有利差異) |

問題 9

養豚業を営む当社は、直接原価計算を行っている。次の〔資料〕に基づき、①当期の総飼育日数、②期末仕掛品原価を計算し、直接原価計算方式によった場合の損益計算書の空欄（③）～（④）に入る金額と、それぞれの正しい組み合わせの番号を一つ選びなさい。なお、期末仕掛品原価の計算方法は先入先出法による。

〔資料〕

1. 生産・販売データ

| | | | |
|-------|--------------|-------|-----------------|
| 期首仕掛品 | 180 頭 | 期首製品 | 0kg |
| 当期投入 | <u>360 頭</u> | 当期完成品 | <u>27,360kg</u> |
| 合計 | 540 頭 | 合計 | 27,360kg |
| 期末仕掛品 | <u>160 頭</u> | 期末製品 | <u>0kg</u> |
| 当期完成品 | <u>380 頭</u> | 当期販売品 | <u>27,360kg</u> |

完成品の家畜の飼育日数は 120 日であった。期首仕掛品となった家畜は 90 日の飼育日数が経過しており、期末仕掛品となった家畜は 60 日の飼育日数が経過している。また、期末仕掛品となった家畜の素畜費は、2,800,000 円であった。

2. 製造原価データ

| | <u>期首仕掛品原価</u> | <u>当期製造費用</u> |
|-------|----------------|---------------|
| 素畜費 | 3,096,000 円 | 6,300,000 円 |
| 変動加工費 | 1,397,600 円 | 2,164,500 円 |
| 固定加工費 | 1,123,700 円 | 1,872,000 円 |

3. 販売費及び一般管理費

| | |
|-------|-------------------------|
| 販売費 | 1,420,000 円 (すべて固定費である) |
| 一般管理費 | 1,519,000 円 (すべて固定費である) |

4. 当該家畜からは 1 頭あたり 72kg の製品が加工される。製品 1kg 当たりの販売価格は 550 円であった。

直接原価計算方式の損益計算書

(単位：円)

| | | |
|-------------|-------|-------|
| I 変動益 | () | () |
| II 変動売上原価 | | |
| 1. 期首製品棚卸高 | () | |
| 2. 当期製品製造原価 | (③) | |
| 合計 | () | |
| 3. 期末製品棚卸高 | () | () |
| 限界利益 | | () |
| III 固定費 | | |
| 1. 加工費 | () | |
| 2. 販売費 | () | |
| 3. 一般管理費 | () | () |
| 営業利益 | | (④) |

【選択肢】

| | ① | ② | ③ | ④ |
|---|----------|-------------|-------------|-------------|
| 1 | 39,000 日 | 3,793,600 円 | 9,164,500 円 | 1,072,500 円 |
| 2 | 39,000 日 | 3,332,800 円 | 9,625,300 円 | 611,700 円 |
| 3 | 52,200 日 | 3,793,600 円 | 9,164,500 円 | △51,200 円 |
| 4 | 39,000 日 | 3,332,800 円 | 9,625,300 円 | △51,200 円 |
| 5 | 52,200 日 | 3,332,800 円 | 9,164,500 円 | 1,072,500 円 |

問題 10 伝票会計に関する次のA～Eの記述には、誤っているものが二つある。その誤っている記号の組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

- A. 振替伝票は、現金の入金取引及び出金取引以外の取引があった場合に記入するもので、仕訳上の借方科目および貸方科目の前提はない。
- B. 未払金を現金で支払った場合に記入する伝票は、出金伝票である。
- C. 伝票会計を採用している場合であっても、別途仕訳帳を作成しなければならない。
- D. 出金伝票は、現金の支出があったときに記入するものであり、仕訳上の借方科目は現金が前提となっている。
- E. 入金伝票に記載された取引を勘定口座に転記するとき、現金勘定の借方へ転記し、科目欄に記入された勘定の貸方へ転記する。

【選択肢】

1. A, B 2. A, D 3. B, C 4. B, E 5. C, D

問題 11

Y牧場は、年1回3月末決算の法人である。Y牧場の次の資料をもとに計算した ①育成費振替高、②育成仮勘定の期末残高として正しい金額の組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

Y牧場 育成牛一覧表

| No. | 取得日 | 前期繰越額 | 当期中の育成費用 | 当期中に成熟したものの取得価額 | 次期繰越 |
|-----|------------|------------|----------|-----------------|------|
| 201 | X1. 04. 07 | 585, 323 円 | | | |
| 202 | X2. 07. 15 | 235, 860 円 | | | |
| 203 | X3. 05. 10 | — | | | |
| 合計 | | 821, 183 円 | ① | | ② |

- 4/30 育成牛No.201 が成熟したので生物に振り替えた。なお、当期首から本日までにNo.201の育成に要した飼料等の額の合計額は18,280円であった。
- 5/10 出生した牛No.203 を搾乳牛として育成することとした。
- 3/31 決算につき、当期中に育成牛の育成に要した飼料等の額を集計したところ、No.202に280,500円、No.203に255,100円であった。

【選択肢】

1. ① 18,280 ② 771,460
2. ① 18,280 ② 1,375,063
3. ① 535,600 ② 771,460
4. ① 553,880 ② 771,460
5. ① 553,880 ② 1,375,063

問題 12

3月決算法人の次の一連の取引の仕訳について、空欄①、②に入れるべき最も適切な勘定科目または金額を下記の【勘定科目・金額】から選び、その正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

- (1) 4月2日に事務所の建設を依頼し、契約代金15,000,000円の一部1,500,000円を手付金として、普通預金から振り込みして支払った。

(借) (①) 1,500,000 (貸) 普通預金 1,500,000

- (2) 12月1日に上記事務所が完成し、引き渡しを受け、同日に業務のための使用を開始した。なお、残金は同日に普通預金から振り込みして支払った。

(借) (各自推定) 15,000,000 (貸) (①) 1,500,000
(貸) 普通預金 13,500,000

- (3) 3月31日、決算につき上記事務所を定額法（耐用年数24年、償却率0.042）により減価償却を行った。（間接法）

(借) 減価償却費 (②) (貸) 減価償却累計額 (②)

【勘定科目・金額】

ア 建物 イ 建設仮勘定
ウ 189,000 エ 210,000 オ 630,000

【選択肢】

1. ① ア ② ウ
2. ① ア ② エ
3. ① ア ② オ
4. ① イ ② エ
5. ① イ ② オ

問題 13 次の仕訳のうち、誤っているものが二つある。その誤っている仕訳の記号の組み合わせを示す番号を一つ選びなさい。

ア. スピードスプレーヤー（散布機械）を所有権移転ファイナンス・リースにより取得した。取得価額は5,000,000円である。

(借) リース資産 5,000,000 (貸) リース債務 5,000,000

イ. 上記ア.のリース料を普通預金から口座振替により支払った。リース料65,000円のうち利息相当額は6,000円である。

(借) 支払リース料 59,000 (貸) 普通預金 65,000

(借) 支払利息 6,000

ウ. 収穫機を所有権移転外ファイナンス・リースにより導入した。リース料の総額は1,800,000円である。なおリース料に含まれる利息相当額は不明で、リース資産総額に重要性が乏しいと認められるので、リース料総額から利息相当額の合理的な見積額を控除しない方法を適用する。

(借) リース資産 1,800,000 (貸) リース債務 1,800,000

エ. 決算にあたり、上記ウ.のリース資産の減価償却を行う。

(償却方法：間接法、総リース期間72ヶ月、今期のリース期間は3ヶ月である)

(借) 減価償却費 75,000 (貸) 減価償却累計額 75,000

オ. 草刈機をリース（オペレーティング・リース）し、今期分のリース料200,000円を普通預金口座から振り込んだ。

(借) リース債務 200,000 (貸) 普通預金 200,000

【選択肢】

1. ア、イ 2. ア、ウ 3. イ、オ 4. ウ、エ 5. エ、オ

問題 14 次の〔取引〕のうち、「作付助成収入」勘定に計上される金額を計算し、【選択肢】1～5のうちから正しい番号を一つ選びなさい。

〔取引〕

- A 収穫作業を受託し、1反あたり20,000円で5反分の代金を受領した。
- B 集出荷貯蔵施設（取得価額：80,000,000円）の取得にあたり、収益性向上対策にかかる補助金として、取得価額の2分の1相当額の交付を受けた。
- C 米の販売収入の合計が標準的収入額を下回ったため、その補填として収入減少影響緩和対策交付金328,500円が交付された。
- D 作物の生産の助成を目的とする水田活用の直接支払交付金800,000円が支給された。

【選択肢】

- 1. 100,000円
- 2. 382,500円
- 3. 800,000円
- 4. 1,128,500円
- 5. 40,428,500円

問題 15

次の〔文章〕中の①、②に当てはまる語句を下記の〔語群〕から選択し、正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

〔文章〕

農業経営基盤強化準備金は、租税特別措置法上の準備金である。税務上、（ ① ）認定農業者等の個人又は農地所有適格法人が、経営所得安定対策交付金等の交付を受けた場合において、農業経営基盤強化に要する費用の支出に備えるため、一定の金額を損金経理の方法により農業経営基盤強化準備金として積み立てたとき（剰余金の処分により積立金として積み立てる方法を含む。）は、当該積み立てた金額は、必要経費（個人）又は損金（法人）に算入されることとなる。

なお、剰余金の処分により積立金として積み立てる方法による場合の積立て及び取崩しは、基本的には株主総会や農事組合法人の総会の決議に基づいて行われるが、株式会社においては取締役会の決議に基づいて行うことが多い。農業経営基盤強化準備金の積立て及び取崩しが取締役会の決議に基づいて行われた場合、記帳が期末日において行われて当期の（ ② ）に記載されることになるが、株主総会の決議に基づいて行われた場合は記帳が総会の日付で行われて翌期の（ ② ）に記載されることになる。

一方、農事組合法人の場合、総会の決議に基づいて行われた農業経営基盤強化準備金の積立て及び取崩しの記帳は総会の日付で行われるものの、当期の（ 各自推定 ）に記載されることになる。

〔語群〕

- | | | |
|-----------|-----------------|------------|
| ア 青色申告をする | イ 青色申告又は白色申告をする | |
| ウ 損益計算書 | エ 株主資本等変動計算書 | オ 剰余金処分計算書 |

【選択肢】

1. ① ア ② ウ
2. ① ア ② エ
3. ① ア ② オ
4. ① イ ② ウ
5. ① イ ② オ

問題 16

安久利農事組合法人の剰余金処分に関する次の決議に基づいて記帳をする場合に、①～②に入る勘定科目・金額として正しい組み合わせの番号一つを選びなさい。

【X2年2月22日開催の総会における決議事項】

従事分量配当金として10,000,000円を配当する。

(仮払配当金に計上されている金額と同額)

(参考)

積み立てる利益準備金の額は、農業協同組合法で定める最低金額とする。

定款において、出資総額の2分の1に達するまで利益準備金を積み立てるものと定められている。

安久利農事組合法人の貸借対照表の純資産の部の抜粋(期末X1年12月31日現在)

(単位：円)

| | | |
|--------------|-------------------|--------------------------|
| I 株主資本 | | |
| 1. 出資金 | | 3,000,000 |
| 2. 利益剰余金 | | |
| (1) 利益準備金 | 100,000 | |
| (2) その他利益剰余金 | | |
| 農業経営基盤強化準備金 | 8,500,000 | |
| 繰越利益剰余金 | 13,200,000 | |
| (うち当期純利益) | (13,000,000) | |
| | <u>21,700,000</u> | |
| 利益剰余金合計 | | <u>21,800,000</u> |
| 純資産合計 | | <u><u>24,800,000</u></u> |

| | | | | | |
|-----|---------|------------|-----|-------|------------|
| (借) | 繰越利益剰余金 | (各自推定) | (貸) | 利益準備金 | (①) |
| | | | | (②) | 10,000,000 |
| | 未払配当金 | 10,000,000 | | 仮払配当金 | 10,000,000 |

【選択肢】

1. ① 1,000,000 ② 未払配当金
2. ① 1,000,000 ② 仮払配当金
3. ① 1,300,000 ② 未払配当金
4. ① 1,300,000 ② 仮払配当金
5. ① 1,400,000 ② 未払配当金

問題 17

次の文章の①～③に最も当てはまる〔語句〕の正しい組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。
なお、〔語句〕は同じものを何度使用してもよいものとする。

消費税とは、商品の販売などの際に課税される（ ① ）の一種であり、国内における消費に担税力を求めて課税される。消費税は（ ② ）が最終的に商品の購入などを通じて負担する税金であるが、消費税の納付は（ ② ）自らが行うのではなく、商品の販売などを行った（各自推定）が行うことになる。

つまり、消費税は（各自推定）の行った売上に対して課税され、消費税相当額が、（各自推定）の販売する商品等の価額に上乗せされることになり、最終的には（ ③ ）に転嫁される仕組みになっている。

〔語句〕

ア 直接税 イ 間接税 ウ 事業者 エ 法人 オ 消費者 カ 個人

【選択肢】

1. ① ア ② ウ ③ ウ
2. ① ア ② カ ③ オ
3. ① イ ② ウ ③ エ
4. ① イ ② オ ③ オ
5. ① イ ② カ ③ オ

問題 18～25

水稻生産と酪農業を経営するA株式会社のR4年1月1日からR4年12月31日までの会計期間について、次の〔資料1〕及び〔資料2〕に基づいて、以下の設問に答えなさい。なお、当社は原価計算制度を採用していない。

〔資料1〕 決算整理前残高試算表

| A株式会社 | R4年12月31日 | (単位:円) |
|------------|-------------|------------|
| 212,643 | 現金 | |
| 7,503,201 | 普通預金 | |
| 2,408,600 | 売掛金 | |
| 541,213 | 原材料 | |
| 1,821,523 | 仕掛品 | |
| 168,000 | 仮払法人税等 | |
| 18,230,100 | 建物 | |
| 9,070,424 | 機械装置 | |
| 499,123 | 器具備品 | |
| 2,207,641 | 生物 | |
| 4,330,000 | 土地 | |
| 82,500 | 株式交付費 | |
| | 買掛金 | 887,151 |
| | 預り金 | 65,493 |
| | 仮受金 | 330,000 |
| | 長期借入金 | 13,000,000 |
| | 農業経営基盤強化準備金 | 4,500,000 |
| | 資本金 | 9,000,000 |
| | 繰越利益剰余金 | 14,997,583 |
| | 水稻売上高 | 8,280,335 |
| | 生乳売上高 | 14,810,670 |
| | 価格補填収入 | 1,998,000 |
| 521,376 | 種苗費 | |
| 881,416 | 肥料費 | |
| 7,043,892 | 飼料費 | |
| 5,103,647 | 賃金手当 | |
| 798,305 | 動力光熱費 | |
| 421,335 | 共済掛金 | |
| 5,400,000 | 役員報酬 | |
| 166,100 | 事務用品費 | |
| 334,801 | 通信費 | |
| | 受取利息 | 211 |
| 123,603 | 支払利息 | |
| 67,869,443 | | 67,869,443 |

〔資料2〕決算整理事項

(1) 棚卸資産の期末棚卸の状況は、以下のとおりである。棚卸資産の決算整理は、総額法による。

| 品目 | 数量 | 単価 |
|-----|------|-----------|
| 飼料X | 63 袋 | 4,180 円／袋 |
| 肥料Y | 40 袋 | 4,400 円／袋 |

なお、期末における仕掛品の評価額は 2,351,600 円であった。

- (2) 当期において農業用トラクター 7,700,000 円を取得したので、機械装置に計上した（適正に処理済）。これに伴い、農業経営基盤強化準備金を全額取り崩し、直接減額方式により 4,500,000 円の圧縮記帳を行う。
- (3) 作付助成の交付金として 520,000 円支払われる旨の通知を R4 年 12 月 20 日に受け取り、R5 年 1 月 10 日に入金になった。決算において、当期の収入として計上する。
- (4) 株式交付費は、当期 7 月 1 日に増資をした際に支出したもので、支出後の 3 年間で月割償却している。
- (5) 当期 8 月 31 日に搾乳牛を 330,000 円で売却し現金を受け取ったが、会計処理の方法がわからなかったため、仮受金として処理している。この搾乳牛の取得価額は 490,080 円、期首時点における減価償却累計額は 163,360 円である。減価償却費は、耐用年数 4 年、償却率 0.250、（残存価額なし）の定額法により計算し、記帳方法は直接法とする。
- (6) 建物、機械装置、器具備品、生物の減価償却費は、（5）を除きそれぞれ 1,115,000 円、2,012,300 円、214,100 円、552,000 円である。記帳方法は、直接法とする。
- (7) 減価償却費のうち、製造原価に含めるべき金額は、2,328,400 円である。
- (8) 決算において、法人税等の年税額が 348,000 円と確定した。

製造原価報告書

A株式会社

自 R4 年 1 月 1 日 至 R4 年 12 月 31 日

(単位：円)

I 直接材料費

| | | |
|---------|-----|-----|
| 期首材料棚卸高 | () | |
| 種 苗 費 | () | |
| 肥 料 費 | () | |
| 飼 料 費 | () | |
| 計 | () | |
| 期末材料棚卸高 | () | () |

II 直接労務費

| | | |
|---------|-----|--|
| 賃 金 手 当 | () | |
|---------|-----|--|

III 直接経費

| | | |
|----------|-----|-------|
| 動力光熱費 | () | |
| 共 済 掛 金 | () | |
| () | () | (ア) |
| 当期総製造費用 | () | () |
| 期首仕掛品棚卸高 | () | () |
| 計 | () | () |
| 期末仕掛品棚卸高 | () | () |
| 当期製品製造原価 | () | (イ) |

問題 18 上掲の製造原価報告書の空欄 (ア) を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 3,548,040 2. 3,629,720 3. 5,113,040 4. 8,651,687 5. 8,886,020

問題 19 上掲の製造原価報告書の空欄 (イ) を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 16,466,421 2. 16,670,167 3. 17,526,575 4. 17,730,321 5. 18,512,469

損 益 計 算 書

| A株式会社 | 自 R4年1月1日 至 R4年12月31日 | (単位：円) | |
|-------------------------|-----------------------|--------|-------|
| I 売 上 高 | | | |
| 1. 売 上 高 | () | | |
| 2. () | () | | |
| 3. (ウ) | (エ) | | () |
| II 売 上 原 価 | | | |
| 1. 当期製品製造原価 | () | | |
| 2. () | (オ) | | () |
| 売 上 総 利 益 | | | () |
| III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 | | | |
| 1. 役 員 報 酬 | 5,400,000 | | |
| 2. 事 務 用 品 費 | () | | |
| 3. 通 信 費 | () | | |
| 4. 減 価 償 却 費 | () | | () |
| 営 業 利 益 | | | () |
| IV 営 業 外 利 益 | | | |
| 1. 受 取 利 息 | () | | |
| 2. (カ) | (キ) | | () |
| V 営 業 外 費 用 | | | |
| 1. 支 払 利 息 | () | | |
| 2. (ク) | (ケ) | | () |
| 経 常 利 益 | | | () |
| VI 特 別 利 益 | | | |
| 1. () | | | () |
| VII 特 別 損 失 | | | |
| 1. (コ) | | | (サ) |
| 税 引 前 当 期 純 利 益 | | | () |
| (シ) | | | (ス) |
| 当 期 純 利 益 | | | () |

問題 20 上掲の損益計算書の空欄 (エ) と (キ) を計算し、(ウ)、(エ)、(カ)、(キ) の正しい表示科目または金額の組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | | |
|---------------|-------------|------------|-------------|
| 1. ウ 価格補填収入 | エ 1,998,000 | カ 経営安定補填収入 | キ 520,000 |
| 2. ウ 経営安定補填収入 | エ 1,998,000 | カ 作付助成収入 | キ 520,000 |
| 3. ウ 価格補填収入 | エ 1,998,000 | カ 作付助成収入 | キ 520,000 |
| 4. ウ 作付助成収入 | エ 520,000 | カ 価格補填収入 | キ 1,998,000 |
| 5. ウ 作付助成収入 | エ 520,000 | カ 経営安定補填収入 | キ 1,998,000 |

問題 21 上掲の損益計算書の空欄（オ）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 204,200 2. 245,040 3. 297,250 4. 326,720 5. 330,000

問題 22 上掲の損益計算書の空欄（ケ）と（サ）を計算し、（ク）～（サ）の正しい表示科目または金額の組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | | |
|--------------|-------------|-----------|-------------|
| 1. ク 株式交付費 | ケ 27,500 | コ 固定資産圧縮損 | サ 4,500,000 |
| 2. ク 株式交付費償却 | ケ 27,500 | コ 固定資産圧縮損 | サ 4,500,000 |
| 3. ク 固定資産圧縮損 | ケ 4,500,000 | コ 株式交付費償却 | サ 27,500 |
| 4. ク 株式交付費償却 | ケ 13,750 | コ 固定資産圧縮損 | サ 4,500,000 |
| 5. ク 株式交付費 | ケ 14,750 | コ 固定資産圧縮損 | サ 4,500,000 |

貸借対照表

A株式会社 R4年12月31日現在 (単位：円)

| 資 産 の 部 | 負 債 の 部 |
|-----------------|------------------|
| I 流動資産 | I 流動負債 |
| 1. 現金預金 () | 1. 買掛金 () |
| 2. 売掛金 () | 2. 預り金 () |
| 3. 原材料 () | 3. (タ) (千) |
| 4. 仕掛品 () | 流動負債合計 () |
| 5. () () | |
| 流動資産合計 (セ) | II 固定負債 |
| II 固定資産 | 1. () () |
| 1. 建物 () | 固定負債合計 () |
| 2. 機械装置 () | 負債合計 () |
| 3. 器具備品 () | 純資産の部 |
| 4. 生物 () | I 株主資本 |
| 5. () () | 1. 資本金 9,000,000 |
| 有形固定資産合計 (ソ) | 2. 利益剰余金 |
| 固定資産合計 () | (1)その他利益剰余金 |
| III 繰延資産 | 繰越利益剰余金 () |
| 株式交付費 () | 利益剰余金合計 () |
| 繰延資産合計 () | 純資産合計 () |
| 資産合計 () | 負債・純資産合計 () |

問題 23 上掲の貸借対照表の空欄（セ）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 12,915,384 2. 13,007,180 3. 13,103,955 4. 13,222,741 5. 13,435,384

問題 24 上掲の貸借対照表の空欄（ソ）を計算し、正しい金額の番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

1. 25,943,888 2. 25,287,168 3. 25,336,854 4. 30,117,168 5. 25,617,168

問題 25 上掲の損益計算書の空欄（シ）（ス）、貸借対照表の空欄（タ）（チ）について、正しい表示科目または金額の組み合わせとなる番号を一つ選びなさい。

【選択肢】

- | | | | | |
|----|----------|-----------|----------|-----------|
| 1. | シ 法人税等 | ス 0 | タ 未払法人税等 | チ 0 |
| 2. | シ 仮払法人税等 | ス 168,000 | タ 法人税等 | チ 348,000 |
| 3. | シ 仮払法人税等 | ス 168,000 | タ 未払法人税等 | チ 348,000 |
| 4. | シ 法人税等 | ス 348,000 | タ 未払法人税等 | チ 180,000 |
| 5. | シ 未払法人税等 | ス 180,000 | タ 法人税等 | チ 348,000 |